

青少年育成 かすみがうら市民会議 広報誌

vol.7

第5回子ども未来フェスティバルを開催



コマで楽しもう



UVレジンでキーホルダー作り



中南米音楽の伝統楽器体験

● 会長あいさつ ●

青少年育成かすみがうら市民会議 会長 酒井賢治



市民の皆様方には日頃から
青少年育成かすみがうら市民
会議にご理解ご協力をいただ
き厚く御礼申し上げます。

少子・高齢化や情報化の急
速な発展など、青少年を取り巻く環境が
大きく変化しつつある中、本会は、市民
の皆様方と関係各種団体のご協力をいた
だきながら、最大の目的である「次世代
を担う青少年の健全育成」を十分に達成
するために様々な活動を展開してありま
す。

市民総ぐるみで青少年健全育成に取り
組むため、皆様方からご協力いただき
ました会費及び協力金は、毎年7月に開
催されている青少年育成を考えるつどい
を始め、青少年心身健全育成事業（ジュ
ニア和太鼓教室）、ウィークエンド・コ
ミュニティー・スクールなどの主催事
業、青少年相談員連絡協議会、市子ども
会育成連合会、市立中学校立志行事など
への補助金交付、また広報事業などへ大
切に活用させていただいております。

今後とも、市民の皆様方には「地域の
親」として子どもたちを温かく見守って
いただき、より一層のご支援とご協力を
お願い申し上げます。



回 青少年育成かすみがうら市民会議とは

次世代を担う青少年が、社会における自らの役割と責任を自覚し、豊かな情操と広い視野を持った大人へと成長することは、市民すべての願いです。

その願いの実現を目指し、地域環境整備や青少年への働きかけを行うことは、我々大人の責務であると言えます。

こうした責務を果たすべく、強力な市民ぐるみの運動を展開し、次世代を担う青少年の健全育成を図ることを目的に、「青少年育成かすみがうら市民会議（以下、市民会議）」が結成されています。

回 市民会議の事業とは

市民会議では、青少年の健全育成運動の総合的企画や関係機関・団体等との連絡調整をはじめ、青少年の健全育成を推進するために各種事業の実施や関係団体の支援、青少年育成に対する関心と理解を深めるための広報・啓発活動を実施しています。

回 市民会議の活動費

市民会議は、その活動にご賛同いただいた皆様からの会費によって運営されています。

会費は、青少年健全育成を目的とした事業の展開や学校、関係団体への支援に対する貴重な財源として活用させていただいております。

回 今年度の事業

青少年育成を考えるつどい

青少年心身健全育成事業（ジュニア和太鼓教室）

ウィークエンド・コミュニティー・スクール（KWCS）事業

青少年健全育成に関する広報活動

新成人への記念品配付

親子つり大会、かすみっ子まつりなど市子連事業への協賛

青少年相談員連絡協議会の巡回・啓発活動への助成

中学校立志行事への助成

高校生会への助成

回 会費について

会費の納入は、毎年6月頃に区長・自治会長・常会長・班長をとお願いしており、一般の方には年額200円、賛助会員の方には年額1口以上（1口1,000円）を納入いただいております。

..... ～推進している運動をご紹介します～

「あいさつ・声かけ運動」

まず、大人から子どもにあいさつ・声かけを始めてみましょう！

「あいさつ・声かけ運動」は、家庭、学校、地域で、大人と子ども・大人同士・子ども同士のコミュニケーションを広げる運動です。

青少年が、将来への夢や希望をもっていきいきと成長していくためには、地域社会の大人たちが、学校や家庭と連携を図りながら支援していく必要があります。

「親が変われば、子どもも変わる運動」

いつの時代にも、次代を担う青少年を健全に育てていくことは親や大人の使命です。

私たち親や大人は、これらのことを自覚して自らの生き方を見直し、姿勢を正していかなければなりません。

青少年の人格形成には、日常生活における親の子どもへの関わりが大きく影響します。親が、子どもたちのよい手本となるよう親自身が変わっていく必要があるのです。



会員加入にご協力をお願いします。

青少年育成を 考えるつどい

平成30年7月14日（土） あじさい

館視聴覚室で、青少年健全育成に対する理解と関心を深めることを目的とした『青少年育成を考えるつどい』を市PTA連絡協議会との共催で実施しました。

第一部 中学生の主張大会

第一部の「中学生の主張大会」では、市内各中学校の代表者6名が、日頃の生活の中で感じたことや考えていることを発表しました。それぞれの主張文をご紹介します。

「自分」を出す勇氣



震ヶ浦中学校 3年
大竹 理央

「このクラスの誰もがリーダーになれる素質を持っている。だからもっと自分を出せ。」

これは、去年の担任の先生の言葉です。もともと私は自分を出すことが得意ではなく、中学生になって急に人数が多い中で生活が始まり、戸惑いを覚えていました。授業中に折角答えが分かったのに周りの目が気になって発表できない。大変そうな人を手伝いたい

けれど、話したことがないから恐くて声をかけられない。本当は言いたいことがあるのに、ずっと自分の中で押し殺して、いつも後悔しながら過ごしていました。

しかし、その言葉があつてから、少しずつ自分にできることを始めました。とは言っても、すぐにできたわけではありません。友達に声をかけられて給食当番を手伝って見たことが最初です。始めは不安だらけで、友達と一緒にできないと何もできませんでした。しかし少しずつ、授業中に発表したり、話したことが無い子と話してみたりするうちに、だんだんそれが当たり前になっていきました。

こうして少しずつ「自分」を意識し始めた頃でした。家族旅行先で、ある外国人の家族が写真を撮って欲しいと、みんなに声をかけているところに出会いました。周りの人達はみんな素通り。きつと、外国人の家族に言葉が通じるのか、もしかしたら他の誰かが応じてくれるのではないかと考えていたのではないかと思います。私も例外ではなく、知らない人に声をかけるのは恐くて、誰か声をかけてくれないかなと、引き受けるのをためらいました。本当は写真を撮ってあげたいという思いがあるのに。その時、「自分を出せ。」先生の声が聞こえた気がしました。「自分」って何だろう。困っている人がいるのに素通りするのは、本当に「自分」なのだろうか？声をかけたいと思っている「自分」を押し殺していいのだろうか？学校では自分の思いを行動に移すのに、こういう時には

何もできないのが本当の「自分」だったのだろうか？

「私が撮ります。」

私がずっと言いたかったこと。今までだったら言えなかったこと。小さくて弱い自分を、大きな勇気で伝えたと、私は「自分」に気づきました。自分の思いや考えを、相手に伝えたり行動に表したりできる強気な「自分」。これが私のなりたかった自分で、この瞬間に気づけた「自分」でした。その家族の笑顔を見たとき、私は見つけました。私という「自分」の一つの形を。

「自分」とは？それは簡単に見つかるものではないと思います。しかし少しでもそれが見えたとき、明るい気持ちになれたり、心が温かくなったり、笑顔になれたりします。私にとってそのきっかけはほんの少しの勇気を出すことでした。皆さんも、そうだと思います。きつと皆さんの胸の中にいる「自分」は、人それぞれでしょう。例えば、本当はおしゃべりが大好きなのに、人前ではうまく話せなくなってしまう人。本当は相手を誉めたいのに、素直になれずに茶化してしまう人。こんなはずじゃなかったのに。そう思うことはありませんか？しかし、どんな人でも、それぞれが「自分」のための勇気を出せば、それを積み重ねていけば、少しずつ本当の「自分」が見えてくると私は思います。

しっかりと前を向いて、大きな声で話すこと。素直に、相手に賞賛の言葉を送ること。電車やバスで席を譲ること。困っている人がいたら声をかけること。「ありがとう」「ごめんなさい」

皆さんは 勉強が好きですか？



千代田中学校 3年
伊藤 雄哉

私は、勉強が嫌いです。皆さんは勉強が好きですか？嫌いで

を言うこと。そして、今私がこの場所に立っていること、これも私の「自分」のための勇気です。人から見たら、もしかしたらすごく小さなことかもしれませんが。それでも私にとっては、自分の気持ちを出したことで、それは大きな勇気だということに変わりはないのです。だからどんなことでも良い。たとえ小さくても、「自分」のための勇気を出してみてもいいです。そして、本当の「自分」を見つけてほしい。私はそう思っています。

小さな勇気を出すだけで、本当の「自分」は見つかる。いくらだつて見つけられる。私は、いつでも「自分」に対して正直でいたいから、きつかけをくれた先生の言葉と、ほんの少しの勇気を大切にしていきたいです。

この世界の誰もが、リーダーになれる素質を持っている。不安や葛藤を乗り越えて、ありったけの思いを込めた小さな勇気を出した時。それはあなたが、本当の「自分」を見つける瞬間！

すか？勉強をしたいですか？やるべきだと思いませんか？

私は、このように思います。「大嫌いだけど、勉強がしたいしやるべきだ。」と思っています。

なぜ、大嫌いなのに勉強がしたいし、やるべきだと思っているのでしょうか。これからその根拠を三つ、皆さんにお伝えしたいと思います。

まず、一つ目の根拠です。それは、勉強にはデメリットが少ないということです。

皆さんは勉強にはデメリットがあると思いますか。私は、「自分の時間が少なくなる」ということ以外はデメリットはないと考えています。

学校以外に自宅で勉強を三時間行うとします。三時間は短いと感じる人もいると思いますが、部活動などで帰宅するのが遅くなってしまうと、勉強が終わるのが十一時くらいになってしまう、自分の趣味などに使える時間がほとんど無くなってしまいます。しかし、土曜日や日曜日に自分の好きなことを行えば、勉強に時間を奪われるというデメリットは減少します。

二つ目の根拠は、勉強は努力すればするだけ、実力がつくということです。

私は、「努力をすれば必ず実る」という言葉を決して信じてはいません。「努力が実る」そんなことがあるのは、アニメや漫画の現実ではない世界だけだと考えています。例えば、努力すれば必ずトップアスリートになれるとします。この考えから行くと、この世は、同じだけの努力をした皆が全員、トップアスリートになってしまいます。

しかし、現実とは違います。それは、なぜでしょう。答えは簡単です。元々個人が持っているセンスが違うからです。同じだけの努力をしても、センスがあればどんどん上手になるし、残念ながらセンスが足りなければ、プロになるほどの実力はつきません。

ですが、勉強は違います。確かに勉強にもセンスが必要かもしれませんが。しかし、勉強は、すればするほど力をつけていくことができるのではないかと考えます。

皆さんは福沢諭吉の「学問のすすめ」を知っていますか。その本にはこのような言葉があります。「天は人の上に人をつくらず」有名な言葉です。この言葉だけを聞くと、「人は皆平等である」という意味に捉えがちですが、私は違う解釈をし、次のように考えています。「人は皆平等である。だから勉強するべきだ。」

人は皆平等であるなら、「個性」という言葉や「才能」という言葉は生まれないと思います。また、上下関係や貧富の差、いじめ問題やあらゆる差別の問題などが解決していくと思えます。勉強だけが、皆に等しく与えられた自らの人生を切り開く手段なのではないでしょうか。

最後に三つ目の根拠です。それは、単刀直入に「勉強は必要」だからです。自分の希望する進路を実現させるためには、ある程度の勉強ができないといけません。私は、将来の夢があり、大学にも進学したいと考えています。自分の人生を充実させるためには、勉強が必要なのです。

言葉の持つ力



下稲吉中学校 3年
早乙女 さくら

私の考えは以上です。皆さんはどのように考えますか？

勉強が嫌いな人に最後にもう一度、この言葉を伝えたいです。「私は勉強が大嫌いである。しかし、勉強がしたいし、やるべきである」と。

中学校で生活していると、心無い言葉をよく耳にします。「死ね」や「馬鹿」のような重い言葉が、まるで羽のような軽さで教室の中を飛びかっているのです。多分、本気ではなく、冗談や遊びの一環なのでしょう。しかし、例えば冗談としても、そのような言葉を発することは、悪くないと言い切れるのでしょうか。

私は普段、言葉に気を付けて生活するようにしています。根拠はありませんが、人を不幸にさせる言葉は、言った自分も不幸にする、と考えているからです。しかし、それを実践するというのは、非常に難しいことです。私も、やはり人間ですので、腹立たしいことがあるときもあります。そのようなとき、私は親しい友人や親の前でつい悪口や皮肉を口にしてしまうことがあります。

ます。でも、その後私は大抵後悔するのです。「私は人を傷つけることで苛立ちを解消しようとする人間なのか」と居た堪れないような気持ちになり、自己嫌悪に苛まれます。先ほど紹介したモットーを持つようになった理由の一つでもあります。

このように人を不幸にする言葉を口にしない、というのは非常に難しいことです。しかし、このようにいうと言い訳のようですが、大事なことは、それを徹底することではなく、言葉に気を付けることだと私は考えます。完璧でなくてもいい、「言葉の持つ力」を正しく理解することこそ、一番大事なことだと思っています。

そして、言葉は時に不特定多数の人を傷つけることがあることも理解しなければなりません。これは、SNSでの誹謗中傷の問題を受けてある人が語った言葉です。（概要はこの通りです。）「私は昔からこれだけは言わないようにしている。『死ね』とか『消えろ』とか。このようなことが起こると私はいつも悲しくなる。」人を不幸にする言葉で傷つけられるのは、言葉を向けられた人や自分だけでない、ということが分かりましたか。これは、SNSだけの問題ではありません。現実世界でも起こりうることです。今日も、教室の中に心無い言葉が飛びかっています。その言葉を向けられた人は、わずかに傷つきながら言い返します。心優しく聡い人たちは、止めようとすることは禍根を残すだけだと分かっているから、少し傷つきながらも、ただ静かに、じっと耐えています。さて、例え

冗談だとしても、心無い言葉を発することは、悪くないと本当に言い切れるでしょうか。

「言葉の持つ力」というと言霊など根拠のないものを想像するかもしれない。しかし、ここで私が述べたかったのはそのことではありません。正しく言えば、言霊については私個人の価値感になってしまいうので触れません。ここでの「言葉の持つ力」とは自在に形が変化するもののことです。言葉は人を称賛することができます。ジョークで楽しませることができます。美しい自然や郷愁を詠うこともできます。しかし、言葉はそんな美しい側面を持ちながらも、人を貶めることもできることを忘れてはなりません。

言葉は時に友との間をつなぐ絆であり、家族をつなぐ愛です。いまだ到達していない技術への標であり、「今」を未来へ残すための写真です。そんな言葉はときに人を傷つける刃にもなります。

今、学校に限らず様々な所で言葉によるトラブルが起っています。だから、言葉の持つ力を、言葉の在り方を今一度考えてみてほしいのです。言葉の多面性を正しく理解することができれば、世の中はいっそう良いものになるのではないのでしょうか。



共に生きていくための 社会づくり



霞ヶ浦中学校 3年
仲澤 美穂

「世界湖沼会議」
十七回目を迎えるこの世界会議が、今年、「いばらき霞ヶ浦二〇一八」として開かれることを、皆さんは知っていますか。

湖沼は、農業や漁業、産業そして文化においても、重要な資源・資産であり、その環境保全が重要な課題となっています。そして、そこにある水は、すべての生命の基礎であり、人を含む多様な生態系に多大な恩恵を与えてきました。近年の世界湖沼会議では、この生態系に関するテーマが議論されています。生物に国境はなく、世界全体でこの問題に取り組んでいくことが重要であると、開催要項に示されています。

私が、この世界湖沼会議に関心を持ったのは、他でもなく、私が生まれ育ったところに霞ヶ浦が広がっているからです。そして、その霞ヶ浦について、私は小学二年生から、水質や自然環境、霞ヶ浦の成り立ちとそこに暮らす人々との関係を調べてきました。夏休みを利用して毎年続けてきました。

研究を始めたころは、楽しみもなく、大変で面倒で何度も辞めたいと思いました。現在まで研究を続けることができたのは、私にとって、とても大切なライバルの存在があったからです。

小さな小学校で共に学んだその子は、いつも私の前にいました。足も速く、徒競走でも、持久走でも、私の前を走っていました。勉強でも、夏休みの宿題でも、いつでも賞を取るのはその子でした。悔しくて、悔しくて、どうしても負かすことができない、その子の存在がありました。悔しさのあまり、ときには、その子がいなくなっしまいました。「何でもできるのが嫌」「転んでくればいいのに」「ミスしてくれば、私が勝てるのに」と、いつしかそんなことを思うようになっていました。

そんなとき、いつも優しく応援してくれる祖父が、思いもよらないことを言いました。

「美穂はいいなあ。とっても素敵なライバルがいるから。」

小学校の低学年だった私は、はじめてライバルという存在を知りました。ライバルとは、相手の欠点を探し回るような、足を引っ張るような関係ではなく、互いに相手を認め合い高め合いながら、好敵手として存在する関係だと思えます。私は、勝てないのなら相手を「排除する」という考え方を改めました。同じことをしても勝てないのなら、自分にしかない強みを養い、共に成長しながら生きていく関係になりたいと思いました。その子と共に生

きていくために、特化して優れたものを持つていない私は、ひとつのことを辛抱強く続けていくことで、成果が得られる方法を選びました。それが、今も続けている霞ヶ浦についての研究です。

霞ヶ浦も、そこに暮らす人々と共に生きてきました。塩害対策と飲料水取水の目的で水門が完全に閉鎖され、汽水湖から完全な淡水湖に姿を変えました。そして、自然の浜と水辺は姿を消し、住民の憩いだった水浴場がなくなりました。しかし、霞ヶ浦の周辺では、今もなお、植物が繁り、鳥や動物が生息しています。そして、日本の発展に貢献する水資源としての役割を果たしています。その霞ヶ浦の姿は、いつしかひとつのことを続ける自分と重なっていききました。私たちは、霞ヶ浦が歩んできた歴史と文化を大切に、以前の霞ヶ浦に戻すための努力ではな



く、役割を持った、美しく新しい霞ヶ浦と共に生きていくための努力をしなければならぬと思います。

ライバルのその子とは、今も競い合っています。この存在が私にとつて、とても大切な時を紡いでいます。人も湖沼も、互いに支えあい、共に生きていくための社会づくりが大切です。社会には様々な人が存在し、そのすべての人が必要です。そして、それぞれの役割を果たし連携していくことで、共生社会を創りだすことができるのではないのでしょうか。

ありがとう 〜感謝の気持ち〜



千代田中学校 3年
江川 千尋

「ありがとう。」

この言葉を言われると、なんだかうれしい気持ちになります。けれど、自分の口から言うのは照れくさい。なぜだろう。特に、親に対して言うときが一番照れてしまうのです。

洗濯、料理、掃除、普段の仕事。これらのことを当たり前してくれる両親。だからこそ、自分から「ありがとう。」の五文字が言えない。

本当はいつも思っているのです。家に帰ると、いつも「おかえり。」の声

が聞こえ、私を笑顔で迎えてくれます。とてもうれしく感じているし、これだけでも「ありがとう。」と思うのです。

親はいつも私のことを心配してくれています。けれど、「ありがとう。」が言えません。それどころか、逆に「うるさい。」と反抗してしまうことさえあります。世の中には色々な事情で親と一緒に生活できずに苦しんでいる人もいるのに。心配されたくても、注意されたくても、それさえしてもらえない人もいるのに。

私は、時々、そのありがたい心配でさえ、嫌になってしまうことがあります。本当は自分のために言ってくれていることが分かっているのに。「ありがとう。」が言えない。素直になれない。

一番感謝しているのは、私を産んでくれたお母さん。そして、いつもそばにいてくれる家族のみんな。私は末っ子として生まれました。二つ上の兄に、五つ上の姉、そして父と母と私。五人家族です。

一番下ということもあり、昔から姉と兄にはよく遊んでもらいました。これにも「ありがとう。」だ。家事をすべてこなしながらも、怒るとすぐく恐い母。夜、仕事から帰ってきて疲れているのに、勉強を教えてくれる父。住んでいる場所は違っても、毎日私を気にかけてくれている祖父と祖母。本当に「ありがとう。」

私は、姉の影響で小学校三年生からバレーボールを続けています。そして、小学校六年生の最後の大会で、全国大会に出場できることになったのです。場所は福岡県。私以外の家族四人が応援

援に来てくれました。

試合中、ずっと応援してくれた家族のみんな。今だから言えます。「ありがとう。」試合当日はいつもより頑張れました。スパイクも、苦手なレシーブも。これも、家族のおかげ。もし、家族の応援がなかったら…。優しく背中を押してくれた家族に感謝しています。

最近、周りの友達が「お父さん、嫌い。」「お母さん、うるさい。」「兄弟いない。」などと言っているのを聞くことがあります。私もたまに思ってしまうことがあります。けれど、家族の存在がなかったら、私は今まで成長することもできず、存在すらなかったかもしれないかもしれません。家族は、それくらい必要な存在。本当に大切な人たち。

最近、悲しいことに家族の命を奪ってしまうといったニュースを耳にすることがあります。いつも「なんでだろう。」この六文字が私の頭に浮かぶのです。どんな理由であっても、人の命を奪ってはいけません。なおさら、一緒に生きてきた家族に対し、そんなことをするなんてありえない。誰もが家族に対し、持っているであろう「ありがとう。」の気持ちはどこにいつってしまったのでしょうか。私には理解できません。

「ありがとう。」は魔法の言葉。誰も傷つくことがない。けれど恥ずかしい。色々な思いが詰まっている。

「ありがとう。」と言われて嫌な気持ちになる人はいない。けれど、嬉しくなる人は沢山いる。それくらい万能な言葉。

私は、これからも家族への感謝の気持ちを忘れずに生きていきたいです。最後に一言。
「ありがとう。」

生きる意味



下稻吉中学校 3年
戸田 海斗

僕は、ショックを受けました。なぜ罪のない人が殺されるのでしょうか。

二〇一八年、六月九日、新幹線の車内で、二十二歳の男が、なを振り回し、二人の女性が重傷を負い、一人の男性が命を落としました。その男性は、襲われていた女性を助けようとして命を落としたそうです。僕は、このニュースをテレビで知り、言葉を失いました。おかしい、なぜこんなにも勇敢な人が命を落とさなければならないのでしょうか。テレビでは、その事件の現場の映像が映されていました。物は床に散らかっていて、所々血がついており、悲惨な状態でした。

また、僕はその後事件についてニュースを見てみると、三年前にも新幹線で焼身自殺があったことを知りました。さらに僕は、この二つの事件をネットにあがっている動画などを通して調べてみました。「自殺するなら一

人で死ぬよ。」「自殺するのは勝手だが、他人を巻きこむのは許せない。」などのコメントが多く見られました。僕は、その意見と同じ考えでした。罪のない人がなぜ死ななければならぬのでしょうか。巻き込まれた人は、どんな夢を持っていたでしょう。しかしその夢は、決して叶うことはないのです。家族や友達、周りの人もそうです。今まで通りの生活を過ごすことは厳しくなるのです。本当に無責任です。」「自殺したいなら、人目につかない場所です。勝手にしてくれ。」僕はそう思っていました。しかし、それではだめだということに気付いたのです。自殺をしてしまったら、一人の命が消えてしまうからです。どんな人でも、一人の人間としての命の価値は同じです。そしてその命には、必要のないものなどないのです。どんな理由があろうとも。

「日本は、自殺率が高い国の一つです。」今でも、学校でのいじめによつて、多くの子どもが命を落としています。僕は、なぜ人は自殺を選ぶのか考えてみました。しかし、考えれば考えるほど分からなくなり、明確な答えは浮かびませんでした。きっと、そんな単純なことではないからだと思います。でも、少しでも自殺者を減らすことはできると思います。人の心は、変えることができるのです。僕は、暗い気持ちになつていて人を明るい気持ちにすることができたら、自殺者は減ると思います。「どうしたの?」「大丈夫?。」たった一言でいいのです。周りの人に声をかける勇気が持てたら。となりにそっと座つてあげる優しさが持てたら。

ら。生きる意味を探せるかもしれない。

僕は、あるお坊さんの話を思い出しました。そのお坊さんは、「多くの人々は、『だるい』『めんどくさい』などネガティブな発言を多く口にするが、それは物事を勝手に決めつけている。実際にやってみて、つまらなかつたら口にするが、それは物事を勝手に決めつけている。実際にやってみて、つまらなかつたら口にするべきだ。」と話していました。僕は、勇気を出して、挑戦してみることによつて、新しいことに触れ、楽しいことが見つかると思います。楽しいことがあると、それを楽しいために、生きる意味が生まれます。それにより、自殺者が減ると思います。僕の楽しいと思うことは、新しいことを知ることです。本を読んだり、調べることにより知識が増え、謎が一つ解けたような気がして楽しいのです。それが僕の生きる楽しみであり、生きる意味の一つだと思います。

今、世の中には、生きるのがつらかったり、苦しいと思つていて人がたくさんいます。けれど、生きることをやめてはいけません。世界の見方を変えて、新しいことに挑戦していつてほしいです。僕は、これから受験や就職など大きな壁にぶつかるでしょう。ですが、僕は諦めません。どんな大きな壁も越えてみせます。そして、みなさんも、これから新しい道を自ら切り開いていつてほしいです。自分を変えることは、最後は、自分にしかできません。歩んでいきましよう。生きる意味を探すために。

青少年育成を考えるつどい

第一部 講演会

『インターネットの危険性から 子供たちをどう守るか ―保護者の目線から―』

講師

茨城県メディア教育指導員

石井美知夫氏



第2部の講演会は、石井美知夫氏から、夏休みを前に保護者は危険な出会いや危険な人物から子供たちをどう守っていくかという方策を学びました。

平成30年度

「少年の主張茨城県大会主張文を募集しました」

公益社団法人茨城県青少年育成協会及び独立行政法人国立青少年教育振興機構の主催による「平成30年度少年の主張文募集」に市内3中学校から250名の応募があり、学校から推薦のあった6名の主張文を提出いたしました。その後、県内の17,377名の応募から優秀作品（10作品）が選出され、9月15日に茨城県大会が開催されました。かすみがうら市から、霞ヶ浦中学校3年の仲澤美穂さんが優秀作品に選出され発表しました。

タイトル	中学校名	学年	名前
「自分」を出す勇氣	霞ヶ浦	3	大竹 理央
共に生きていくための社会づくり	霞ヶ浦	3	仲澤 美穂
皆さんは勉強が好きですか？	千代田	3	伊藤 雄哉
ありがとう～感謝の気持ち～	千代田	3	江川 千尋
言葉の持つ力	下稲吉	3	早乙女さくら
「生きる意味」	下稲吉	3	戸田 海斗



平成30年度少年の主張茨城県大会 霞ヶ浦中学校3年 仲澤美穂

研修会等へ参加しました

○土浦地区青少年育成市民会議連絡会研修会

平成30年12月15日（土）土浦市立図書館

○青少年健全育成茨城県推進大会

平成31年2月6日（水）茨城県立県民文化センター

かすみがうら市 青少年相談員 連絡協議会

青少年育成に関する関心と理解を深めるための啓発活動や、環境浄化を推進することを目的とする様々な活動を行っています。

- ①巡回活動／青色防犯パトロール車にて毎月2回市内の施設や店舗を中心に巡回しています。また、ふれあい生涯学習フェア、かすみがうら祭などの市内で開催されるイベントでも巡回指導を行いました。
- ②あいさつ・声かけ運動／生徒が登校する時間にあわせ、市内3中学校であいさつと声かけを行いました。
- ③啓発活動／神立駅での非行防止キャンペーンや市内のイベントにて、多くの方に青少年健全育成への理解を語りました。
- ④視察研修／青少年相談員としての更なる資質の向上を目指して、今年度は2月8日（金）に千葉県横芝光町を訪問しました。青少年相談員同士の活動内容について情報交換や、課題を共有するなどし、今後の活動の参考にすることができました。
- ⑤店舗への訪問活動／コンビニエンスストアなどの商業施設を訪問し、「青少年健全育成に協力する店」として良好な環境づくりへの協力をお願いしました。市内では現在34店舗にご協力いただいております。
- ⑥県青少年相談員連絡協議会第5ブロック研修会／平成31年1月23日（水）に石岡市にて、相談員の資質向上及び青少年の健全育成のため、また、石岡市つくば市土浦市かすみがうら市の青少年相談員相互の連携を深め、広域的な青少年問題に対応できる体制づくりのため、研修会が実施されました。



第5ブロック研修会



市内3中学校で行われた
あいさつ・声かけ運動



神立駅前行われた非行防止
キャンペーン

市子ども会 育成連合会事業

親子つり大会



雪入川でのニジマス釣りの様子

平成30年5月26日(土)に上佐谷地区の雪入川で「親子つり大会」が開催され186名の親子が参加しました。今年度も当事業に市民会費が経費の一部を協賛しました。
初夏の日差しの中、和やかに釣りを楽しんだり、大きな獲物の獲得に奮闘する親子の微笑ましい姿が見られる楽しい1日となりました。

青少年心身 健全育成事業

ジュニア和太鼓教室



かすみがうら祭で練習の成果を発表

市内の小学3年生から中学3年生を対象に、千代田公民館講堂を会場に開催。13名の参加者が7月の猛暑の時期から練習を開始しました。あゆみ太鼓の方々の指導の下、バチの持ち方や構え方などの基本的な練習から始め、6回の教室で学んだ課題曲「じとう太鼓」を10月のふれあい生涯学習フェア、11月のかすみがうら祭で堂々とした姿で披露することができました。

高校生会の活動

高校生会は今年度12名となり、ふれあい生涯学習フェアでのおぼけ屋敷の実施、大人クラブのかすみがうら祭出店協力、KWC S事業の協力、あじさい館ホールのクリスマスツリー装飾等、様々なイベントに参加し、また、定例会を実施して活動の計画を検討するなど、意欲的に活動していました。新年度の入会もお待ちしています。



かすみがうら祭出店協力

成人式典事業

平成31年1月12日(土)千代田公民館講堂にて、平成30年度の成人式典が行われました。335名の新成人が出席し、懐かしい友との再会に喜び、この日の思い出と未来への希望を胸に、これまで20年間培った経験とこれから始まる新しい道に向かって歩み始めました。市民会費から記念品の協賛を行いました。



書家アーティストの岸本亜泉さんによるオープニングアクト



KwCs

かすみがうら市 ウィークエンド・コミュニティー・スクール事業

市内に住む児童・生徒を対象に、心豊かな人間性と郷土を愛する心を育むことを目的に、学校や家庭などの日常生活では経験できないような体験学習を関係機関、団体、組織が一体となって事業を実施しています。

今年度は、防災キャンプ（リーダー研修会）、夏休み絵画教室、古墳フェスタ、帆引き船模型作り教室、ふれあい生涯学習フェアでの体験教室、クリアキャンドル作り（かすみっ子まつり）、子ども未来フェスティバル等の事業を実施しました。

Fight!



防災キャンプ
(応急手当・避難所宿泊体験)



夏休み絵画教室



古墳フェスタ
(埴輪作り)



**帆引き船
模型作り教室**



かすみっ子まつり
(クリアキャンドル作り)



ふれあい生涯学習フェア
(アクセサリー作り)

青少年育成かすみがうら市民会議

事務局 かすみがうら市教育委員会事務局生涯学習課
〒300-0134 茨城県かすみがうら市深谷3719-1
TEL.029-897-0511 FAX.029-898-2965

発行日：平成31年3月18日